

# 法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-28

明治二十年第五百八十三号

---

(発行年 / Year)

1910

明治廿年第五百八十三号

裁判言渡書

扣訴人東京府麹町区元平  
河町拾番地士族雜業

樋口逸士

右代言人同府神田区猿樂  
町二番地寄留熊本縣士族

井本常治

被扣訴人同府神田区南甲  
賀町八番地寄留京都府  
農商務屬

坪倉重和

右代言人同府神田区美土

東京控訴院

代町二丁目一番地寄留長  
野縣平民

本弓潤

右樋口逸士ヨリ坪倉重和ニ對スル家屋  
立退並ニ家賃請求事件東京始審裁判所  
カ言渡シタル裁判ニ服セスシテ樋口逸  
士ヨリ扣訴ヲナシタルニ依リ之ヲ受理  
シ扣訴被扣訴双方代言人ノ陳述ヲ聽ク  
コ其要領尤ノ如シ  
扣訴代言人陳述ノ趣旨ハ扣訴人ハ明治  
十九年五月中本按ノ家屋ヲ抵当トシテ  
金四ヲ右所有者後藤イトニ貸與シ其右  
同年九月中イトヨリ之ヲ買取リタルモ

ノニシテ而ノ当時イトヨリ敷金ノ一ヲ  
聞知セサリシヲ以テ扣訴人ハ全ク右ホ  
ノ関係ナキト信シタリ仮リニ敷金ア  
リシモノトナスモ右ハ人権ニシテ物権  
ニアラサルヲ以テ被扣訴人ハイトニ対  
シテ請求スルハ格別扣訴人ニ対スルノ  
口実トナスヲ得サルヘシ若シモ之ヲ物  
権ナリトセハ其弊害マ言フヘカラスト  
殊ニ右敷金ヲ入レタリト云ヘルハ明  
治十九年六月中ナレハ扣訴人ノ抵当權  
ヲ得タル以後ニ係ルヲ以テ是亦扣訴人  
ト對抗スルノ權ナキモノトス要スルニ  
始審ノ裁判ハ不当ナルニ付之ヲ取消シ

東京控訴院

扣訴人ノ請求スル様被扣訴人ハ速ニ家  
屋ヲ立退併テ家賃ヲ仕拂フヘキ裁判ヲ  
受ケ度シト云フニ在リ  
被扣訴人陳述ノ趣旨ハ被扣訴人ハ  
本按家屋ノ先所有者後藤イトニ対シ敷  
金五拾圓ヲ差入レ以テ借家ノ約ヲ取結  
ヒタルモノナレハ扣訴人ニ於テ家屋ノ  
明渡ヲ請求セントセハ必ス其敷金ヲ返  
還セサルヘカラス然ルニ扣訴人ハ敷金  
ノ返還ヲナサスシテ家屋ノ明渡ヲ請求  
スルハ不当ナリトス被扣訴人ハ最初ヨ  
リ屋賃ノ支弁並ニ家屋明渡ニ付テハ異  
議シタルトナキニ訴訟入費ヲ各自弁ト

裁判シタルハ不当ナルヲ以テ始審裁判  
ヲ取消シ訴訟入費ハ扣訴人ヨリ弁償ス  
ヘキ様裁判受度レト云フニ在リ

依テ之ヲ審按シ説明スルノ尤ノ如シ  
本按家屋ノ先所有者後藤イト調書ニ敷  
金五拾円家賃四円ニテ又三郎カ坪倉ニ  
賃典ヘタルハ相当ト思ヒ美故其修ニ致  
置キ且ツ委任シタルノ故又三郎ニ於テ  
敷金家賃ホノコハ取計フテモ可然トト  
思ハレヌトアレハ右敷金ハ先所有者ノ  
代人ニ於テ正当ニ收受シタルモノト認  
定ス而メ家屋賃借ニ付敷金ノ設ケアル  
コトハ府下普通ノ事柄ナレハ本按家屋ヲ

東京控訴院

賣買シタルノ当時ニ在テ扣訴人ハ必ス  
ヤ是ホノコトヲ穿索シタルヘシ良シヤ之  
カ穿索ヲナサ、リシモノトセハ是レ扣  
訴人自己ノ不注意ナルニ付今更之ヲ以  
テ他ヲ責ムルノ口実トナスヘカラス且  
ツ夫レ敷金ナルモノハ果シテ何為スル  
モノソフ賃貸不拂ノ豫備ニシテ畢竟賃銀  
ノ先拂タルニ外ナラサルヘキナリ然ラ  
ハ其家屋ノ所有權ヲ讓リ受ケタル扣訴  
人ハ該家屋ニ属スル敷金ノ義務モ亦負  
担セサルヲ得ス扣訴代人ニ於テハ扣  
訴人ハ被扣訴人ノ賃借ニ先テ抵当權ヲ  
有シタル旨ヲ陳述シ以テ被扣訴人敷金

ノ効カト優劣ヲ争ハントスルモ右抵当  
權ト敷金トノ効力如何ニ付テハ扣訴代  
言人ノ陳述ヲ道理アルモノトスルモ扣  
訴人ニ於テ已ニ其所有權ヲ得テ該家屋  
ヲ全有スル上ハ右陳述ハ本按ニ關係ナ  
キモノトス家屋明渡し家賃支弁ニ付テ  
ハ被扣訴人ニ於テモ異議ナキヲ以テ説  
明セス

右ノ理由ニ依リ判決スルノ尤ノ如シ  
明治廿年六月廿三日東京始審裁判所カ  
言渡しタル本按裁判ハ取消スヘキ筋ナ  
シ扣訴人ハ敷金ヲ返還シ被扣訴人ハ速  
カニ家屋ヲ明渡し延滞シタル家賃ヲ支  
弁スヘシ

東京控訴院

但シ右金額ハ互ニ相殺スルコトヲ得  
訴証入費ハ始終審共扣訴人ヨリ弁償ス  
ヘシト命ス  
明治廿年十二月廿八日東京扣訴院公廷  
ニ於テ終審ノ裁判ヲ言渡しス者也

民事第一局

扣訴院評定官和田收藏  
扣訴院評定官津村董  
扣訴院評定官高野孟矩